

那覇市都市交通協議会

平成22年3月24日設置

沖縄県
那覇市



概要

沖縄県においては、平成20年度に本島中南部の広域的な都市交通マスタープランと併せて、基幹バスを中心としたバス網再構築計画を策定したところであり、広域的な公共交通の活性化に向けた計画が策定され、今後、その取り組みが実践されていくものとなっている。那覇市においては平成20年に第4次那覇市総合計画を策定し、その中で「だれもが移動しやすいまちをつくる」を施策に掲げ、目標の達成に向けた取り組みを展開していくこととしている。これらの上位計画の策定を受け、本市の交通計画では長期的な交通の将来像と多様な交通手段の施策の基本方針を示した那覇市交通基本計画及び、短中期的な施策のパッケージを位置付けた総合交通戦略の両計画を平成21年度に策定し、交通の分野からまちづくりの目標実現に向けて寄与することとしている。平成22年度に策定予定の那覇市公共交通総合連携計画では、交通基本計画で位置付けられた那覇市のまちづくりの活性化に寄与するシステムとなる「モデル性の高い基幹的公共交通（基幹バスやBRT・LRTなどを想定）」の段階的導入計画の検討を主とし、それと併せて各公共交通モードが連携し公共交通全体の活性化に繋がるよう、将来ネットワーク、交通結節点の整備及び端末手段（歩行者・二輪車・タクシー等）のアクセス性向上、その他公共交通の利便性・快適性向上策について検討を行うものとする。

○地域公共交通の現況

県の政治・経済・文化の中心都市である那覇市の交通は、空港・港湾を擁し、幹線道路網および公共交通網の要衝となっていることから周辺市町村からの交通が集中し、あわせて、自家用車に頼り過ぎたクルマ社会の現状から、交通渋滞の慢性化や公共交通の衰退、騒音やCO2の環境問題など、様々な問題が発生している。昭和52年に16.4%あった那覇市内の路線バス利用率は平成18年度には、モノレールを含めた公共交通全体でみても、半数以下の8.1%となっており、公共交通サービスの低下が更なる自動車依存による交通渋滞を招き、平成17年の本市のピーク時平均旅行速度は約14km/hで東京、大阪よりも低い全国ワースト1という極めて重大な交通問題を抱えている。

○地域公共交通の課題

- 路線バスの定時性確保や停留所の上屋・ベンチ・駐輪場の設置及び、バスロケの拡充等による快適性・利便性の向上
- 交通結節点整備や各交通モードの連携による乗り継ぎ抵抗（運賃・待ち時間等）の改善。
- 駅や停留所までの端末手段のアクセス性向上
- モノレール供用区間での利用促進と延長による利用圏域の拡大

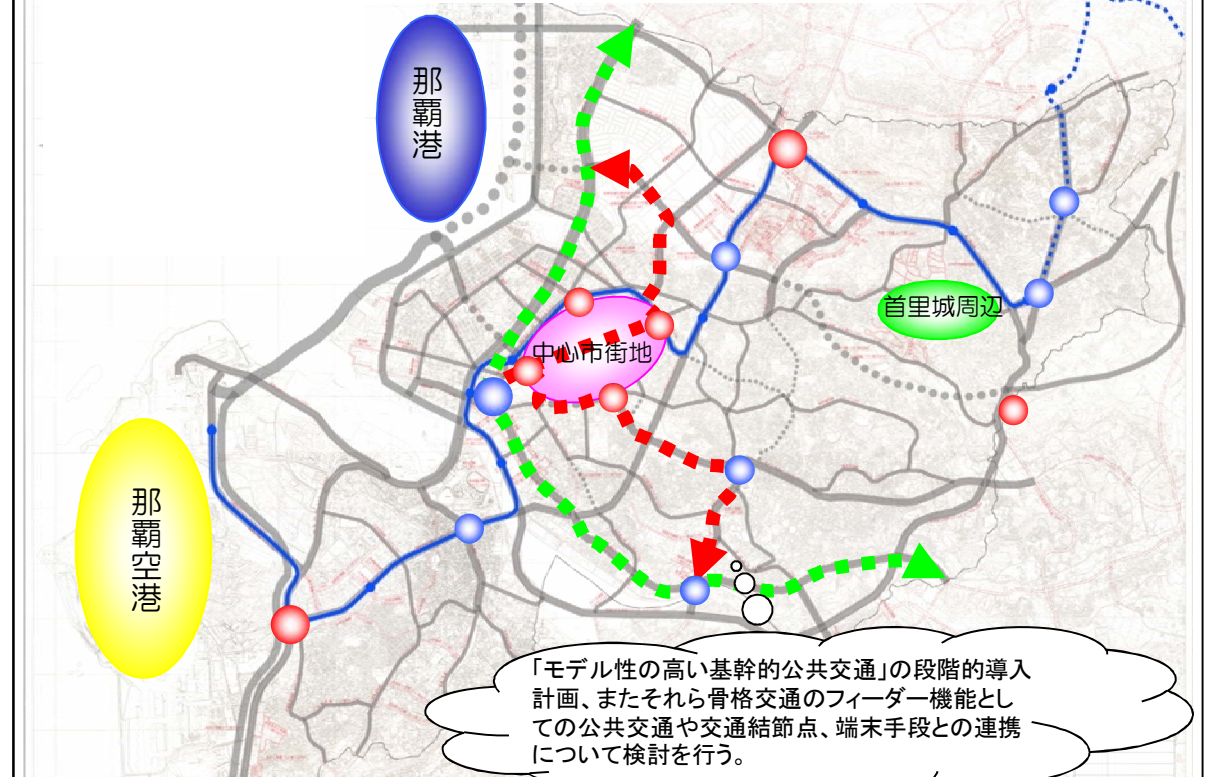
○調査の主な内容

那覇市のまちづくりの活性化に寄与するシステムとなる那覇市交通基本計画で位置づけた「モデル性の高い基幹的公共交通（基幹バスやBRT・LRTなどを想定）」の段階的導入計画の検討を主とし、それと併せて各公共交通モードが連携して全体が活性化できるよう、将来ネットワーク、交通結節点の整備及び端末手段（歩行者・二輪車・タクシー等）のアクセス性向上、その他公共交通の利便性・快適性向上策について検討を行うものとする。

○地域公共交通総合連携計画の策定

各交通モードの役割を明確に示した上で、「モデル性の高い基幹的公共交通」や各交通モードが連携することによって、市民及び旅行客の移動利便性・快適性を向上させ、公共交通全体の活性化を目的とする連携計画を策定する。

那覇市内将来公共交通ネットワーク（骨格交通）



《凡 例》

- モノレール(供用区間)
- モノレール(延長区間)

- 新たな公共交通システム
(広域的なシステム; 基幹バス等)
- モデル性の高い基幹的公共交通